



Messidor Ensemble

メシドール・アンサンブル演奏会

2004年11月20日(土)

ティアラこうとう 小ホール

メシドール・アンサンブル演奏会

フェリックス・メンデルスゾーン

弦楽四重奏曲 第一番 変ホ長調 作品12

第一楽章 *Adagio non troppo – Allegro non tardante*

第二楽章 *Canzonetta: Allegretto – più mosso*

第三楽章 *Andante espressivo*

第四楽章 *Molto allegro e vivace*

ヨーゼフ・キュフナー

(伝カール・マリア・フォン・ウェーバー)

クラリネット五重奏のための 序奏、主題と変奏

————— 休憩 (10 分間) —————

フランツ・シューベルト

ピアノ五重奏曲 イ長調「鱒」 作品114

第一楽章 *Allegro vivace*

第二楽章 *Andante*

第三楽章 *Scherzo: Presto*

第四楽章 *Andantino – Allegretto*

第五楽章 *Finale: Allegro giusto*

クラリネット：金内智恵

ピアノ：手塚雪江

第一ヴァイオリン：石川統之

第二ヴァイオリン：尾作典子

ヴィオラ：林めぐみ

チェロ：坂本謙太郎

コントラバス：奥 俊晴

2004 年 11 月 20 日(土) 14 時 00 分 開演

ティアラこうとう 小ホール

この演奏会に当って齋藤純一郎先生にご指導を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

「世界は夢になり、夢は世界になる」
(ノヴァーリス)

有史以来、人類は様々な方法で自らの周囲に広がる世界を探索し、理解しようと努めてきた。ある者は経験によって、ある者は理性によって……。19 世紀ヨーロッパに登場したロマン主義思想家の場合、その手段は感性と想像力であった。彼らにとって自己の内面に分け入ることは科学者が自然を探究するのと同様に、あるいはそれ以上に世界の真理に迫る行為だったのである。冒頭のノヴァーリスの言葉が示すように、極端な場合には個人の夢の中にこそ世界の本質が存在していると考えられた。

このような思想は芸術表現においても大きな変化をもたらす。芸術家は自らの心に浮かぶものを、あるがままに作品に投影することを許されるようになった。それゆえロマン主義時代の芸術は、個人的な経験・印象・心情、あるいは内発的な衝動を反映していることが珍しくない。直前の古典派の時代には客観性・合理性・形式的な均一性・有機的統一感が重んじられたが、これと比べるとこのようなロマン派芸術の斬新さは際立っている。

ロマン主義思想によって引き起こされた最も大きな影響はおそらく民族主義の勃興だろう。個人の想像力や感性を重んずることは、それを形成する民族や言語、伝説や神話などを貴重な存在とみなすことにつながったのである。折しも 19 世紀前半はドイツが近代的統一国家樹立に向けて動き始めた時期に当たったため、ロマン主義はまずドイツ文化圏で根を張り、花を

咲かせた。ロマン主義にとってドイツは土壌となり、ドイツにとってロマン主義は民族運動の精神基盤となった。

このような時代の空気は、現代に残る芸術作品の中に明快な形で保存されている。音楽によるドイツ・ロマン主義の具現化はウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーンに始まり、その成果はシューマン、ワーグナーを経て、マーラー、R.シュトラウスへと受け継がれる。とりわけ初期の三人の作曲家が果たした役割は、ロマン主義音楽の形成という観点で重要である。

ウェーバー(1786-1826)はその代表的オペラ『魔弾の射手』において「魔法」「悪魔」にまつわる民話を取り上げ、これをドイツ語によって歌い上げた。彼はこれらの行為によってロマン主義的な幻想への憧憬や民族主義を音楽と結びつけることに成功した。これは真にドイツ的な音楽の創始でもあった。

ドイツ語による歌曲はロマン主義の重要な成果である。無論、これ以前にもドイツ語による歌曲がなかった訳ではないが、それはシューベルト(1797-1828)によって初めてひとつの芸術分野として確立された。また、彼の歌曲の中でピアノが担う情景描写や心理描写も、感性を重んじるこの時代の思想の反映と言えよう。

これをさらに突き詰め、器楽におけるロマン主義の在り様を模索したのがメンデルスゾーン(1809-1847)である。例えば、ピアノ独奏曲「無言歌」はその大きな果実ではないだろうか。

ここでは情念が言葉を介することなく、音によって表現されている。また、序曲『フィンガルの洞窟』や交響曲「スコットランド」は、作曲者がかの地で抱いた印象を音楽的に再現したもののだが、これもロマン派器楽の一つの類型となった。これらの業績は、ドイツ民族が育んだロマン主義音楽をドイツから解放し、普遍的なものへと高めるものであった。

このようにロマン主義が音楽の幅を拡げたことは疑いの余地がない。しかし、これは同時に音楽を内側から瓦解させる種を植え付けることにもなった。個人の夢が投影された作品を芸術とみなすのか、妄想とみなすのかは解釈の問題となる。それゆえ、作曲者は言葉によって自らの作品の芸術性を論じる必要に迫られる。そういう意味で、シューマンやワーグナーが音楽評論の世界で活躍したのは必然だった。この事実に鑑みれば、古典派の美德がかろうじてその影響を保っていた初期ロマン主義時代は、音楽が純粹に音楽として成立していた最後の時代だったとも言えるのである。

フェリックス・メンデルスゾーン

弦楽四重奏曲 第一番

変ホ長調 作品 12

自らの「夢」を芸術の中に表現することが是とされた時代にあって、メンデルスゾーンは古典的な規範を守り続けたと言われる。即ち、過度な情緒への耽溺を避け、音楽の均整と有機的統一感を重んじたとされる。

弦楽四重奏曲第一番を見る限り、この見方は半分正しく、半分間違っている。四つの楽器が複雑に絡み合う構造は古典派の頂点をなしたベートーヴェンを髣髴とさせる。しかし、形式的な統一感を顧みない奔放な旋律の展開はまさにロマン派というに相応しい。一方、第三～第四楽章を連続させ、第一楽章の第二ヴァイオリンの旋律を第四楽章に再び登場させることによって、全楽章を一つの塊として捉えた時の有機的な結合力や劇的效果は高められており、古典派的な配慮も見られる。

この曲を介して、古典派とロマン派の両者の美点を絶妙なバランス感覚によって両立させたメンデルゾーンの洗練された姿を思い描くことが出来るのではないだろうか。

ヨーゼフ・キュフナー（伝ウェーバー）

クラリネット五重奏のための

序奏、主題と変奏

この曲は 1815 年に初めて出版された時にウェーバーの作品とされ、以来 20 世紀半ばまでそう信じられてきた。現在も多くの楽譜・録音はウェーバーの名を冠している。しかし、近年の研究によれば本当の作曲者はヨーゼフ・キュフナー(1776-1856)である。

ロマン主義の時代は、従来貴族の占有物だった芸術が市民階級に解放された時代でもあった。だが、芸術音楽が時として新興ブルジョワジーの理解の範疇を超えたためか、彼らによりもてはやされたのは超絶技巧を駆使

した華麗な器楽曲であった。華々しく、目新しい演奏効果を追求したこれらの曲は、人口に膾炙するほどに飽きられ、やがては忘れられるという逆説的な宿命を負っていた。事実パガニーニの作品のような少数の例外を除けば、ほとんどがこの運命を辿った。しかしこの事実がこれらの曲の価値を正しく反映しているかは注意深く考えるべきだろう。

キュフナーもこのような忘れられた作曲家の一人だが、幸いにして「序奏、主題と変奏」だけは現代のクラリネット奏者にとって馴染み深い曲として定着している。これは出版社が販売促進のためにこの曲をウェーバーの作品と偽ったことによるところが大きい。我々が、ロマン主義と時を同じくして一世を風靡した超絶技巧音楽の真価を改めて問うことが出来るのも、この営利行為の‘恩恵’だとすれば皮肉なものである。

曲はゆっくりとした序奏に始まり、Allegretto の主題と六つの変奏で構成される。それぞれの変奏ではクラリネットという楽器の技巧と表現の可能性が追求されている。

フランツ・シューベルト

ピアノ五重奏曲 イ長調「鱒」

作品 114

シューベルトの名はまずドイツ歌曲という新分野の開拓者として歴史上に刻まれている。勿論、彼の器楽曲作曲家としての功績も偉大だが、これを語るにも歌曲に触れなければならな

いことが多い。ピアノ五重奏曲「鱒」はその一つの典型である。

1819 年の夏、シューベルトは中部オーストリアを訪れる。シューベルトの才能をいち早く認め、それを世に知らしめた名歌手フォーグルに誘われ、避暑を兼ねた演奏旅行に伴奏者として随行したのだ。この途上二人はシュタイアの鉱山業者パルムガルトナーの家に滞在し、厚遇される。アマチュアのチェロ奏者でもあったこの音楽愛好家は、自ら演奏するための器楽曲をシューベルトに依頼した。これに応じて作曲されたのがピアノ五重奏曲「鱒」である。作曲に際してシューベルトはパルムガルトナーが好んだ自作の歌曲「鱒」の旋律を第四楽章の変奏曲の主題として用い、その厚意に報いた。かように、この曲はその成立の経緯も、旋律も、愛称も、シューベルトの歌曲の業績なしに論ずることは出来ない。

しばしば指摘されるようにピアノ五重奏曲「鱒」は、無邪気と言えるほど単純な形式によって構成されており、古典的な美德～形式的統一感・素材の有機的結合～からは外れている。その代わりに叙情性や鮮やかな色彩感などロマン的な魅力に溢れている。第一楽章の中間部や第二楽章におけるめまぐるしい和声の変化はシューベルトの「夢」そのものであるとし、「鱒」の旋律による第四楽章はこの夏の旅行中各地で喝采をもって迎えられたシューベルトの幸福感やシュタイアの風景の反映であろう。そしてその響きの中には、確かにひとつの「世界」が広がっているのである。

メシドール・アンサンブル

メシドール・アンサンブルは、メンバーを固定せず、演奏会のたびに「いつかやりたいと思っていたあの曲」を携えた有志が集う緩やかな集団です。このため取り上げる曲の楽器編成も毎回違っていきます。メンバーは社会人、学生、主婦、プロの音楽家まで雑多ですが、演奏会にいらして下さるお客様と共に音楽を楽しみたいという思いは一つです。今後ともよろしくお願いいたします。

金内智恵（クラリネット）

10歳でクラリネットを始める。上智大学文学部史学科卒。同大管弦楽団では首席奏者を務め、卒業演奏会でウェーバーの協奏曲を演奏し好評を博す。現在は子育ての傍ら横浜市港南区ひまわり管弦楽団に所属。メシドール・アンサンブルには第1回演奏会（ブラームス：クラリネット五重奏曲）以来の参加。

手塚雪江（ピアノ）

武蔵野音楽大学卒。近年は渡辺しおり氏（ソプラノ）、吉江忠男氏（元フラנקフルト歌劇場専属バリトン歌手）のリサイタルで定期的に共演。また、声楽グループ『リーダークライス』のピアニストを務め、ドイツリートに精力的に取り組んでいる。地元長野県内では、幼稚園や学校での声楽家やヴァイオリニストを交えた鑑賞教室、カフェでの定期的なサロンコンサートなど、地域の音楽振興にも積極的である。メシドール・アンサンブルには初出演。

石川統之（第一ヴァイオリン）

3歳からヴァイオリンを始める。上智大学外国語学部ロシア語学科卒。同大管弦楽団、アンサンブル・ムジカでコンサートマスターを務める。2003年より1年間ロシアに滞在し、「赤の広場」にてモスクワ音楽院のプロ邦楽アンサンブル『和音』と共演。この模様は現地の新聞で報道された。

尾作典子（第二ヴァイオリン）

13歳よりヴァイオリンを始める。明治学院大学文学部芸術学科卒。同大管弦楽団では第二ヴァイオリンの首席奏者を務める傍ら、メイデン・ストリング・カルテットを結成し室内楽にも励む。メシドール・アンサンブルには、第1回よりすべての演奏会に出演している。現在は某音楽大学図書館に勤務。

林めぐみ（ヴィオラ）

音楽が盛んな福島県会津若松市に生まれ、小学校の合奏部でヴァイオリンを嗜む。日本大学入学後ヴィオラに転向。同大管弦楽団、J M J オーケストラ、アンサンブル・ムジカにて首席奏者を歴任。第3回演奏会に続き、2度目のメシ

ドール・アンサンブル出演である。

坂本謙太郎（チェロ）

13歳からコントラバスを始め、15歳でチェロに転向。上智大学管弦楽団では首席奏者を務めた。卒業後、仕事の都合でしばし音楽から離れる。経営学修士号取得のため留学した英国のオーケストラで活動を再開し、帰国後は某シンクタンクに勤務しつつ、音楽活動を継続している。近年はアンサンブル・ムジカ、幕張ベイタウン・オーケストラにて首席奏者を務めた他、2002年よりメシドール・アンサンブルを主宰。

奥 俊晴（コントラバス）

上智大学管弦楽団にて中西利通氏の薫陶を受けた後、オーケストラ・ディマンシュ、アンサンブル・ムジカにて首席奏者を務めた。某運輸会社に勤務。メキシコに赴任中にはメキシカンポップスにも影響を受けた。現在はザ・シンフォニカに所属。メシドール・アンサンブルには今回が初参加となる。

これまでの演奏会

第1回（2002年7月13日 於：新宿文化センター 小ホール）

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 第一番 二短調 Op.49（フルート・チェロ・ピアノ用編曲版）

ブラームス：クラリネット五重奏曲 四短調 Op.115

第2回（2003年7月6日 於：幕張ベイタウン・コア 音楽ホール）

ハイドン：弦楽四重奏曲 二短調「五度」Op.76-2

ビゼー／シンプソン：フルート・チェロ・ピアノのためのカルメン幻想曲

ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲 ヘ長調「アメリカ」Op.96

第3回（2004年2月15日 於：新宿文化センター 小ホール）

モーツァルト：フルート四重奏曲 第一番 二長調 K.285／オーボエ四重奏曲 ヘ長調 K.370／

アダージョとロンド ハ短調 K.617／ピアノ四重奏曲 第一番 ト短調 K.478

今後の演奏会

2005年7月10日（日） 於：ティアラこうとう 小ホール

曲目未定

この演奏会のご案内を希望される方は、その旨アンケート用紙にご記入下さい。

なお演奏会の詳細はメシドール・アンサンブルのホームページ

(<http://messidor.hp.infoseek.co.jp>) にて、随時お知らせいたします。

